

[別紙①]

第1学年 総合的な学習の時間 学習指導略案

- 1 主 題 「多様な性」について考えよう
- 2 ね ら い 自身の性について偏見や差別を恐れ、悩み苦しんでいる人の存在を知り、互いを認め合い、だれもが生きやすい社会について考える。
- 3 人権教育の内容 人間関係の活性化3－（2）－ア

4 展 開

学 習 活 動 と 予 想 さ れ る 反 応	指 導 上 の 留 意 点
1 前田良さんの講演会を思い出し、どのような話の内容であったのか想起する。 ・坊主頭にして先生に叱られた。 ・スカートが嫌いであった。 ・野球をしたかったのに、ソフトボールしかできなかった。	○ 自由に発言させる。
2 前田良さんの周りの人たちのことを考える ○前田さんの家族や友だち・先生は前田良さんにとってどんな存在であったのだろう。	○ 当時は、心と体が一致しない状況を理解してもらえない環境になかったことを想起させる。
3 なぜ家族や友だちにも相談ができなかったのかを考える。 ・変に思われる。 ・恥ずかしい。 ・ばかにされる。 ・否定されるに決まっている。 ・うわさになって、いじめられるかもしれない。	○ 私たちの心の中にある「固定観念」についても考えを及ぼせる。 ○ 「言葉」だけでなく、「態度」での否定についても追究していきたい。
4 どのような環境（理解）が大切かを考える。	
どのような環境であれば、前田良さんは安心して自分のことを話せたでしょうか。	
5 班で意見交換をする 6 全体で意見交換をする ・お互いに認め合う。 ・相手を否定しない。 ・みんなが知る。 ・みんなが知識を持つ。	○ LGBTQの方がいることを「知る」、いることを前提に生活をしていく、という流れで展開できるとよい。
7 前田良さんのお話を聞く。 8 感想を書く。	○ 家に帰って今日の授業を保護者に伝え、家の人にもコメントをいただく。

5 評 価

- ・ 性で悩む人の存在を知り、こうした人たちの付き合い方について自分なりに考えを深めることができたか。
- ・ この学習を通して学んだことを、自分の生活の中で生かそうとする意欲を高めることができたか。
- ・ 学習活動に積極的に参加し、自分の考えや思いを表現するとともに、友だちの考えや思いを受けとめ、共に生きる意欲をより高めることができたか。

〔別紙②—1〕

実践事例「多様な性」について考えよう
＜生徒の感想文より＞

1 回目の講演会の時よりも、すぐ近くで前田さんのお話を聞いたり、自分の意見を言うことができ、これまで以上にたくさんのことを知ることができました。前田さんが経験された差別や息苦しさは、今ではこれまでよりも減ってきていると思います。それは、知ってくれる人が増えてきている証拠なのかなと思います。学校でこのような授業を受けることも知るきっかけになるし、前田さんのように SNS で発信している人から学ぶことも大切だと思いました。いろいろと知ることが大切だと今回分かりました。広い視野をもって考えられる人になりたいです。

先週前田さんのお話を聞き、もしかしたら自分の周りにも性のことで悩んでいる人がいるかもしれないなと思いました。今日も前田さんといっしょに授業をしながら、どうすれば悩んでいる人が相談できる環境を作ることができるかを考えました。私の班では、相談されたとき、その人の悩みや考えを否定するのではなく、話をただ聞いてあげるだけでも気持ちが軽くなるのではないかという意見が出ました。また、いつでも相談に乗るよという雰囲気を作っていくことも大切だという意見も出ました。障壁のない世界を作っていけるといいなと思います。

ぼくは2回の LGBTQ に関する学習から、「男だから」とか「女だから」と分けられてしまうことに違和感をもつ人もいることを知りました。前田さんは、相談できなくて悩んでいました。だからぼくは、だれもが相談しやすいクラスになるよう、まず自分が「差別」をしないよう、「男女」で分けるとかしないような人になりたいと思いました。また、性のこととかで悩んでいる人の相談相手になれる人にもなりたかったです。今日はありがとうございました。

自分が「男だから」とか「女だから」といった偏見や意識をもっていないかと言われると、自信がありません。生まれてから私は、スカートをはくことに違和感をもったことはありません。でも、そこに違和感をもちながら生きるとはすごく辛かっただろうなと思います。たまたまこの体で生まれてきただけなのに。それでいろんな差別や苦しみがあるなんて。きっと私が想像できないほどの辛さだったと思います。私はふだんの会話の中で、自分でも無意識に差別につながるような発言をしているかもしれないと感じるようになりました。そういうことに今回の学習を通して気付いたので、そのような発言をしないよう気をつけたいと思いました。そして、だれからも相談してもらえよう人になりたいと思いました。今回、とても大切なことを学ぶことができました。ありがとうございました。

私は今回の授業で、「知る」ことの大切さを学びました。世の中にはいろんな人がいて、「女だから」とか「男だから」といった決めつけが間違いだということを、もっと知ることが大切だと知りました。また、体と心の性が異なる方がいることを知ること大切だと思いました。私の周りにも、口に出せていないだけで、もしかしたら性のことで悩んでいる人がいるかもしれません。だから私は、そんな人たちから相談してもらえよう人になりたいです。性別に対する決めつけや偏見をもたずに、いじめを絶対にしないようにしたいです。社会から障壁をなくすことは難しいことかもしれませんが、今日の話聞いた私たち一人ひとりが意識して、そうした障壁をなくす努力をしていきたいです。



【授業の様子】

〔別紙②—2〕

実践事例「多様な性」について考えよう

＜保護者のコメントより＞

自分の「好き」を他人に否定されることは、誰だって傷つきます。他の人たちに否定されても自分の「好き」は変わらないし、大切にしていきたいと思います。それが性別や外見で判断されたりすることはすごく辛いことだと思います。人の「好き」という気持ちをお互いに尊重しあえることが大切だと思います。自分の気持ちを他の人に話せることは、とてもすごいことです。貴重なお話をありがとうございました。

生理的に「なんとなく変、気持ち悪い」、と言っていたことが、実は無知から来る偏見であったり、自分から勝手に線を引いていたということに気付くきっかけとなったようです。知ることによって、自分と同じ「人」なんだと認識すること。これは、触れ合いや経験でしか学べないことだと思います。今回良い経験をさせていただきました。ありがとうございました。

なかなか身近にオープンにLGBTQについて話す人がいないので、貴重な経験をさせていただいていると思います。今の世の中はSNSなどでいろいろな人の情報を得ることができるけど、一方通行ではない、当事者の方からのお話を聞いて感じることは、また違うものがあるのではないのでしょうか。自分がそうであっても友だちがそうであっても変わらない関係性を築けるような人になってもらいたいです。そして未来は、このような講演を聞く必要がないくらい当たり前の世の中になっていたらいいなと思います。

みんなありのままの自分で生きていっていいんだ、ということを知ってくると親としてもうれし
いです。差別のない、いろいろな人が生きやすい世の中になってくれたらいいなと思います。

＜ゲストティーチャー前田良さんのお話＞

学生時代、自分の性について友だちに相談できなかったときのことで。みんなすごくいい仲間だったけど、相談ができませんでした。それは友だちとの関係を崩したくなかったからです。自分の本心を言わずに、仲のよさを維持しようと思いました。仲が良いからこそ相談できないこともあるのです。「いじめや差別をしない生き方をする」のは、すごく大切で簡単なことだけど、実はそうでもないかもしれません。皆さんに伝えたいことのひとつは、自分を好きになること。自分のことを好きにならないと、他の人のことも考えることはできません。それから、自分がされて嫌なこと、言われて嫌なことは他の人にも言わない。同時に、みんなの周りに、まちがったことを否定してくれる人、そんな人がいるかどうかということもすごく大切なんです。今日は皆さんと一緒に勉強ができてよかったです。ありがとうございました。



【授業の様子】